

2024年度幹事会研修会報告

- (1) 2024年7月10日～11日（水・木）、生産者役員12名、消費者役員10名、事務局および同行者7名の参加により2024年度幹事会研修会を沖縄県恩納村で開催しました。
- (2) 初日は、恩納村漁協のサンゴハウス・海ぶどう養殖場を視察し、海ぶどうの養殖確立の歴史、生態と養殖の仕組み、サンゴの白化現象により減少したサンゴ礁再生についてお話を伺い、参加者自身が植え付け用のサンゴを基台に取り付ける作業を体験するなど、漁協の取り組みに触れる
- (3) 続いて、恩納村ふれあい体験学習センターへ移動し、恩納村漁協の仲村参事より、サンゴ礁漁場を守る体制作りとモニタリングについて、農地での取り組み、モズク消費による里海づくり、地域での取り組みについてお話を頂きました。井ゲタ竹内の竹内常務より「恩納村ではこれまでの局面でキーマンとなる人が繋いできた。」「取り組みが特別視されることがあるが、条件が揃えば地域や分野に問わず実現できる。」「取り組みを進める中で、生産者の意識が変わり人材と関係性が育ってきた。」とお話し頂きました。質疑の時間では、「キーマンとなる人材育成について」について、「元々、地域一丸で取り組む地域性があり、地域計画を築いてきた。」「顔の見える関係性がある事で若手生産者の意識が変わった」「品質の良いモズク生産が収入に繋がり、サンゴ再生と連動する道筋ができ共感に繋がった。」「自分たちの役割の中で価値を築き。それが陸域でも広がっている。」とお答えいただきました、
- (4) 交流会では恩納村の山城副村長、漁協・観光協会など関係者13名参加のもとで交流が深められました。
- (5) 2日目はグラスボートに乗船し、金城組合長のご案内のもとで、ひび建て方式により移植されたサンゴの養殖地について、養殖サンゴと天然サンゴの交配について、サンゴ礁の再生地と裸地との魚の生息状況の違い、漁業と観光との共生の取り組みなどについて視察を行いました。
- (6) その後、恩納村ふれあい体験学習センターへ移動し、鳥取大学の元准教授より、恩納村でのローカル認証と知産知消に考え方について、農業環境コーディネーターの桐野氏より、陸域での取り組みについてお話をいただき、質疑の時間では、青木生産者幹事（JA新潟かがやき）より、赤土流失防止の取り組みについて、生産者目線として赤土の素焼き土管を用いた暗渠（あんきょ）排水による流失防止の提案がされ、桐野氏からは海に沈殿した塩分を含む赤土の処分先について現状と今後の話が出されるなど、有意義な意見交換が行われました。
- (7) 最後に恩納村立うんな中学校隣接地および恩納村赤間総合運動公園隣接地に移動し、ハニーコーラルプロジェクトの視察として、養蜂家の池宮氏、農業環境コーディネーターの桐野氏より、休耕地・耕作放棄地への蜜源木植栽による赤土防止と養蜂の取り組みについて、西洋ミツバチによる養蜂について、クロヨナ・アセロラ・サルスベリなど植栽する樹木についてお話を伺い、全プログラムが終了となりました。



海ぶどう養殖場での視察の様子



グラスボート前にて



赤土対策についての意見交換の様子



蜜源木植栽地での視察の様子

以上